

令和4年度 江戸川区立清新ふたば小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

<p>学校教育目標</p>	<p>○知 しなやかな子ども(自ら学びに向かい、知識を知恵に変え、行動できる子ども)                  ◎徳 おだやかな子 おだやかな子ども(相手の気持ちを大切に、あたかであぐもりのある学校づくりの担い手となる子ども)                  ○体 すこやかな子ども(心身ともに健康な生活を意識して送ろうとする子ども)</p>	<p>目指す学校像                  目指す児童像                  目指す教師像</p>	<p>・地域に根ざした教育を実践する学校づくり                  ・子どもが「明日も学校へ行きたいな」と思える学校づくり                  ・教職員が子どもの成長や、やりがいを感じる学校づくり</p>
<p>前年度までの学校経営上の成果と課題</p>	<p>&lt;成果&gt;                  ・地域や保護者の意見交換を積み重ねながら学校づくりを行ったことで、地域や保護者の皆様に「清新ふたば小学校」のよさを伝えることができた。                  ・子供たちにとっても「楽しい学校」「明日が待ち遠しい学校」になってきている。                  &lt;課題&gt;                  ・豊かな学びと体験から、知識を知恵に変え、実践・行動できる子どもを育てる。</p>		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・7つの主要事業(取組)に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・既習事項を活かした問題解決的学習の実施 ・東京ベーシックドリルの取り組み ・一人一台端末を活用した個別最適な学びの表現	・児童一人一人の学習状況に即した学習指導の充実。 ・東京ベーシック診断テスト正答率80% ・昨年度の実践を土台に、実践と振り返りを繰り返し、有効的・効果的な活用方法を見出す	A	A	・問題解決的学習を実施し、きめ細かな指導が行われている。 ・東京ベーシック診断テストの正答率56%であった。ベーシックドリルを活用する。 ・新しい取り組みを実践している。効果的な実践は全体に広めていく。	A	・一人一人の学力に応じた指導を引き続き行ってほしい。一人も取り残さない指導を続けてほしい。 ・基礎的・基本的な学習の積み重ねを大切にしたい。	・診断テストを活用し、児童の実態を把握、授業に生かす。 ・児童の学習に向かう姿勢を大切に、基礎的・基本的な学習を積み重ねていく。
	体力の向上	・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	・休み時間を活用した「運動遊び」の全校実施 ・体育科の授業での運動量を増やす	・運動の日常化が定着するよう、休み時間を活用した「わんぱくタイム」の活動内容の再検討をする。 ・体育科の授業での運動量10%増やす	A	B	・「わんぱくタイム」の活動内容を再検討し、新たな取り組みができた。 ・体育の時間に様々な動きを入れ授業の工夫ができています。	B	・コロナ禍で外遊びの機会が減らないよう、創意工夫して思いっきり体を動かしてほしい。 ・持久走記録会や長縄記録会で思いっきり体を動かす姿が見られた。	・体育の授業では動きを工夫し運動量を確保する。外遊びの遊び方を工夫し楽しみながら運動できる機会を増やす。 ・体力テストを分析し体育の授業や「わんぱくタイム」での活動を工夫する。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・読書科授業の充実35時間。 ・総合的な学習や各教科と関連した探究的な学習 ・図書館の活用	・読書好きな児童80%以上 ・調べ学習が楽しい70%	A	A	・学校図書館の整備、地域図書館との連携が進んでいる。 ・読書科を通して、学年に応じた探究的な学習を行うことができた。	A	・学校図書館、地域の図書館を活用してほしい。 ・調べ学習を楽しみながらできるよう指導してほしい。	・探究的な活動の時間を十分に取る。身に着けたことを多くの人に発信していく。 ・地域の図書館と連携し、団体貸出しを効果的に活用する。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・特別支援委員会の充実 ・特別支援教育校内研修会の実施	・特別支援教室担当教員や心理士との支援方法の共通理解	A	A	・教員間での連携がスムーズに行われている。 ・心理士やSCとの連携をさらに進め、児童理解を進める。	A	・支援の必要な児童にしっかりと手を差し伸べてほしい。子ども同士に優しさや温かさが生まれるように指導してほしい。	・保護者の啓発も重要視する。思いやりの心をさらに育てる。 ・児童理解に努め、より「有効な支援の在り方」を探り、支援を進めていく。
	子供たちの健全育成	・子供たちの健全育成に向けた取組	・いじめ防止アンケートを学期ごとに実施 ・SC・保護者との迅速な連携	・いじめ、不登校0 ・教員間での情報共有週1回	A	A	・いじめの早期発見、早期対応ができています。 ・週1回の情報共有を続ける。	A	・小さいことでもすぐにキャッチして対応してほしい。 ・児童にとって相談しやすい雰囲気をつくってほしい。	・学校全体で情報を共有し、一貫した指導を行う。(週、月目標の活用) ・学校組織内の連携をさらに強化し、いじめの早期発見、早期対応に努める。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・全校統一した重点項目による評価の理解	・江戸川区の施策実現に向けて学校評価を行う	B	B	・重点項目による評価の理解を進める。	B	・学校全体で共通理解を進め、一貫した指導を進めてほしい。	・重点項目を再確認し指導を徹底する。 ・地域との連携を深め、授業等で地域の人材を活用する。
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・会議の精選 ・定時退勤の推奨	・職員会議を精選し、主任会を活用する ・週1回の定時退勤を設定する	B	B	・主任会を活用し、情報共有が行われている。連絡漏れがないよう連携を徹底する。	B	・効率よく仕事ができるよう、環境を整えてほしい。	・定時退勤の推奨していく。 ・学年間での情報共有を大切にしたい。